

被災された、お寺の片付け 家財の運び出し、処分場への運搬に奮闘

穴水町の曾良の高野山真言宗のお寺・千手院の住職のかたからの依頼で、片付けと、災害廃棄物場への搬出のボランティアの活動でした。依頼のいきさつは、このお寺の住職の方の娘さんが七尾の仮設入っておられて、仮設への聞き取り・支援物資届けの活動のなかで、留守のお宅にも、お配りしてきた「こんにちは、被災者共同支援センターです」のチラシを見られて、片付けで困っていたお母さんに話されて、支援センターを尋ねられたということが分かりました。片付けは、二階から廃棄の畳・家財の運び出しや、災害廃棄物処分場への運び込みで軽四トラック2台で2往復と大奮闘でした。「個人が運び出すのは無理だし」「行政からのボランティアの方は活動時間の制約もあり、柔軟な対応をしてもらえない」ということがあったみたいで、困っておられたようです。

住職の方は、「自閉症カウンセラー」などもされていて、「今後片付けて、能登の震災ボランティアの方の宿泊にも活用して頂きたいと考えている」と、大変感謝されてお話ししていました。

支援センターの取り組み、ボランティアの皆さんの奮闘が、被災者の心をとらえて、支援センターは頼りにされており、この取り組みの広がりを感じるものとなっています。



濡れて重くなった畳を慎重に階段を下し
運び出すボランティアの方々

たつみコータロー、清水ただし 衆院比例予定候補が支援活動に

日本共産党のたつみコータロー、清水ただし・両衆院比例予定候補と、大阪府委員会の方々は、11、12日両日、輪島市、珠洲市の仮設住宅を訪問し、支援物資を届け、要望の聞き取りを行いました。「仮設住宅を2年で追い出されない」ことなどで対話が進み、党の国会質問などを紹介した支援ニュースが喜ばれました。



仮設訪問し対話するたつみコータロー・清水ただし両衆院比例予定候補 ビニールハウスで、現在も暮らす方とも対話、仮設の奥の体育館にも、現在約30人の方が避難生活中。広場で避難中の方も訪れ支援物資を配布。